

令和4年10月11日 授業研究会 まとめ

【当日レジュメ】

令和4年度東部小教研体育部ゲーム低・中学年グループ授業研究会

時間	内容
14:10～14:25	受付【体育館入口】 控室【竹の子ホール】
14:25～14:35	事前打ち合わせ（授業の視点確認、役割確認等）
14:35～15:20	公開授業 【会場 体育館】 第4学年 体育 ゲーム「キャッチバレーボール」 授業者 八頭町立船岡小学校 教諭 植島直生
15:35～16:35	授業研究会並びに中・四国小学校体育研究大会（鳥取大会）に向けた検討会 【会場 竹の子ホール】
16:35～16:40	諸連絡

令和4年10月11日（火）

1 日程

2 授業の視点 役割確認

※今回は、発表に向けて特に強調して発表できる点並びに今後発表までに分析・修正が必要になる点を中心に確認をするとともに、記録に残すことを重視してください。

- ① 「する・みる・支える・知る」のかかわりについて…指導案を確認いただき、多様なかかわりがみられる場面を確認、記録に残す。
- ② 児童が、チームでの作戦会議、ゲーム等に浸っている姿を確認、記録に残す。
- ③ わたしたちの体育の活用（作戦会議・ふり返りボードとわたしたちの体育の振り返りの連動）

3 授業研究会

1 あいさつ 担当副部長 富桑小学校 教頭 伊藤 憲栄 先生

2 授業者自評

3 中・四国小学校体育研究大会発表に向けた検討（鳥取県小体研共通理解事項について）

- ① 「する・みる・支える・知る」のかかわりについて
- ② 児童が、チームでの作戦会議、ゲーム等に浸っている姿について
- ③ わたしたちの体育の活用（作戦会議・ふり返りボードとわたしたちの体育の振り返りの連動）について
- ④ 指導案内容について 授業内容について（レベルアップタイム・作戦タイム・アタックゲーム・振り返り等）
- ⑤ 発表の目玉について
・日野先生指導事項…楽しさの実感（課題・条件・ことばのやさしさ） ICTの活用（ビフォー・アフター）

4 終わりに（今後の見通し）

【自評】

- ・テーマとなる児童の想定外なことがあったが、楽しく参加していた。
- ・ボール運動が苦手な子
- ・時間的に盛沢山であった。タブレットのジャムボードの時間が多少長くなり、当初予定の8分×2回のゲームが、6分×2回となってしまった。運動学習時間の確保を考える必要がある。
- ・安全面

【部員からの意見】

- ・ボールを打つ・とる・つなぐなどの基本はできていた。
- ・身に着けたい技能が、時間の初めのレベルアップタイムを使って行われていた。
→レベルアップタイムでは、基本の4つのことについてレベルアップを図っている。パスゲーム・投げ上げキャッチ・対面パス・対面アタック。本来は他チームとは異なる課題について練習する予定だったが、どのチームも他のチームとキャッチと投げ上げを行っていた。
→もっと動きの補修（自己課題に浸りたい）
- ・場の設定(180cmのネット)が、本時のアタックゲームにとって適切な高さであったか。
→場の設定が、体育館の広さの関係で、横が広い。それを生かして、アタックを少しふんわりとさせ、打ち分ける攻撃にさせ、キャッチの難易度を下げさせる。
- ・ルールで、全員がアタックでのポイントなど簡易なルールで勢いのあるゲームとなるのに適切であったか。
- ・全体に、ボールの渡しあい、持ってから判断によって、ゲームが止まってしまう。ネット型ゲームの面白さとしてネットを介した激しい攻防が楽しい運動。今後テンポをあげていく工夫がほしい。
→パスの回数をフリーにしているが、今後回数、キャッチなど工夫をしていきたい。うまいチームの姿を見せていく。
- ・ICTを効果的に活用していた。Jambord を使っての作戦タイム。一方で、電子黒板の限界で、全チームの作戦を掲示するのは見にくかった。
- ・振り返りボードで児童の変容がわかりやすかった。作戦が機能していた。
→時間がかかってしまう。大きさの工夫？グループごとの少人数での使用？
→2軸の項目を単元前半後半で同じでよいのか、扱いについて西部の実践を聞いていく。
- ・運動学習時間が短くなった一つとして、4つのルールの確認（板書）の時間がもったいなかった。

【総括】・単元最後に向けて、より運動の特性である攻守の攻防を行えるような

→場の工夫

→ルールの工夫

→時間の工夫 を行い、より運動学習時間及び、浸れる時間の確保を図りたい。

- ・アンケート、振り返りボード、私たちの体育への振り返りの書き込み等により、運動に苦手意識を持っている児童、運動を得意としている児童、学級全体の意識の変化を分析していく。
- ・ICTの効果的な利用と限界をともに理解して発信していく。
- ・作戦の選択、振り返りの書き込みなどで「わたしたちの体育」の積極的な活用を発信していく。
- ・友達の動きに対して声を掛け合っていたグループもあったので、「みる」視点、「支える」視点を浸透していく。
- ・指導案の様式をきちんと精査して、県の方針に合わせたものに修正する。

【今後の予定】

令和4年	令和5年
10月11日 授業研究会	5月 (東部小教研 第2回研修会) 発表プレゼンテーション作成・検討
19日 東部小教研研究部会	7月 (東部小教研 夏季研修会) 最終原稿・発表プレゼンテーション 作成・検討
12月 資料収集・指導案修正	8月 県夏季研修 プレ発表
令和5年 2月 (C4th 又は部会) 発表原稿草稿作成・検討	